

Topic 1

◇ 学年別 成果が出せる冬休みの過ごし方！

2週間程度の冬休みには、クリスマス・大晦日・お正月など年中行事も重なっていて、特に部活をやっている人は「時間がない」「忙しい」と感じるようです。そんな冬休み期間ですが、高校生にとってはとても大事な期間です。この期間の過ごし方次第で、その後の成果が大きく変わること、多くの先輩たちが経験しています。そこで、冬休みの過ごし方について、各学年の最重要ポイントをまとめました。

【高3生】

①赤本、問題集、冬の講習の3つを駆使して最後の得点力アップを図る

すでにほとんどの人が赤本を解き始めていると思います（まだ自分の志望大学の赤本を解いたことがない人は、すぐに1年分は解くこと！）が、この時期では合格点には達していない大学も多いと思います。合格点（自己採点で75点以上）まであと何点で、それを埋めるためには、どの科目のどの単元を克服するべきなのかを把握して、いままで使ってきた問題集と、冬の講習の講座で得点力アップを図りましょう。

赤本を解く時間を確保するために、冬の講習の講座を少なめに抑えようとする人がいますが、そこには落とし穴があります。赤本を解くだけでは、入試での得点力アップは図れません。合格点との差が明確になったら、その差を埋めるために、問題集で演習したり、冬の講習を受講したりする必要があります。冬の講習は、長年のデータ分析から作られた、直前対策にふさわしい（得点力アップに直結する）講座がたくさん用意されています。自分にとって必要な講座を受講して、完全消化に努めましょう。

センター試験を受験する人（国公立大入試、私立のセンター利用入試を受ける人）は、**センター前の1ヶ月間は、センター対策に没頭しましょう。**マークシート問題をいかに速く解き高得点をたたき出すか、センター試験に体が慣れるまで、冬の講習のセンター対策講座や、市販のセンター模擬テストパックを繰り返し解きましょう。

②塾のテキストを復習する

塾のテキストの2学期内容の部分は入試頻出の単元で構成されています。1学期で基礎を固め、2学期で実践問題を解ける力が養成できる作りになっているわけです。すでに受講し終えた2学期のテキストをもう一度解き直して、得点力アップを図りましょう。2度目の解き直しは1度目ほど時間がかからないため効率の良い勉強法と言えます。英単語帳を使っての暗記も、新しいページに進みたい気持ちは分かりますが、30個新しく覚えても、はじめの方の20個を忘れていけば、結果的に単語数は10個しか増えません。計画的に復習する時間をとって（たとえば、新しい単語を20個覚えたら、前に覚えたものを20個復習する）、着実に語彙数を増やしていきましょう。

③再度赤本を解いて、出題傾向と自分の得点力との差を把握する

冬の講習、問題集演習、2学期テキストの解き直しを経て、どのくらい実力が上がったかを測るべく、再度赤本を解きましょう。その結果を受けて、改めて底上げを図るべき科目・単元を見つけて、冬の講習テキスト、問題集、2学期テキストのその単元部分の解き直しを受験終了まで継続していきましょう。

【高2生】本格的に受験勉強を開始する冬！

志望系統、志望大学にかかわらず、高2の冬は第一志望合格のための受験勉強スタートラインです。受験勉強のスタートが1ヶ月遅れるごとに第一志望の合格可能性は10%落ちると言われています。この時期を逃すと、受験勉強のスタートは学年末テスト終了後になり2ヶ月も遅くなってしまいます（合格可能性が20%落ちます）！冬の講習では、主要3教科を受講しましょう（理系なら英語、数学、理科。文系なら英語、国語、社会）。冬の講習以外の勉強では、英文法の総復習をしてください。基本的なことでも忘れてることが多くて、びっくりするかもしれません（試しに、下の問題を解いてみてください）。英文法の総復習が終わっている人は、次の「構文読解」に進みましょう（BWEX英語がお勧めです）。

問題 次の文を受動態にしなさい。 I saw my brother run across the street yesterday.

答え My brother was seen to run across the street by me yesterday.

※能動態の原形不定詞が、受動態ではto不定詞になるところがポイント

【高1生】 学年末テストで自己最高順位をとろう！

志望系統、志望大学にかかわらず、学年末テストで自己最高の順位を目指しましょう。通知表のクラス順位がよければ、「評定平均」も上がり、指定校推薦で第一志望に合格できる可能性が出てきます。そのための重点学習ポイントは次の2つです。

①通知表の10段階評定で、奇数の評定(9,7,5)を狙おう。

「学年評定」では5段階評定を用いますが、10段階評定の9,7,5はそれぞれ5,4,3になります。10段階評定の10,8,6もそれぞれ5,4,3ですから、10段階評定では奇数の評定(9,7,5)でもよいわけです。

※ただし、10段階評定を5段階評定に直す基準は、学校によって異なります。

②1学期と2学期で評定(通知表結果)が違う科目に力を入れよう。

通知表が1学期は7で、2学期も7の場合、3学期9をとっても、学年評定は平均されて10段階評定で8になり、5段階評定では4になります(ちなみに、10段階評定の7も5段階評定では4です)。通知表が1学期は7で、2学期は6の場合、3学期7をとれば、10段階の学年評定で7になるため、5段階評定で4、3学期6をとれば10段階の学年評定で6になるため、5段階評定で3になります。つまり、1学期と2学期で9と8や、7と6、5と4などで通知表が1だけ異なっている科目は3学期に力を入れて1上げておくことで、効率よく評定平均も上げることができます(10と9、8と7、6と5などは5段階に直したときに同じ評定なので、よほど力を入れないと学年評定を変えることはできません)。

Topic 2

◇ 定期テストの成果 喜びの声

江原 沙織さん

■化学 88点(クラス3位)、英語 82点(自己ベスト) 他

■受講講座 BasicWeb 化学・生物 他

■学校名：東京農大第三高校3年

■在籍校舎：小川中央校



● 定期テスト勉強で工夫していたところは？ 学校の教科書やワーク、プリントをしっかりとやりました。分からないところを映像授業で見て理解を深めました。

● 後輩へのアドバイス 高1から「大学受験は指定校推薦で！」と決めていました。だから、学校の定期テストで高得点をとることにだけ集中して勉強してきました。推薦で行きたい大学がある人は、早く志望校を決めて勉強するとよいと思います。

横山 直輝くん

■世界史 81点 他

■受講講座 BasicWeb 英語・数学 他

■学校名：熊谷西高校2年

■在籍校舎：行田中央校



● 定期テスト勉強で工夫していたところは？ 教科書で重要な要点を抑えてしっかり覚えてから、応用問題など学校のワーク・塾のテキストなどを解いた。

● 後輩へのアドバイス 英語はしっかり単語を覚えること。うろ覚えの知識では、なかなか点数が上がらないと思う。普段の予習は映像授業で手早くすませると楽。

その他、大勢の生徒さんからコメントをもらいました。その一部を紹介します。

①定期テスト勉強の工夫 ②後輩へのアドバイス

■松山高校2年 奥泉優太くん(東松山校) 数学B 92点 他

①映像授業で予習をしてから学校の授業を受け、テスト前には自習室を利用します。苦手だった数学でクラス1位をとることができました。

②部活で忙しくても、定期テスト3週間くらい前からテスト勉強を始めるようにすると、自然と学校の成績はよくなります。いかに時間をつくるか、自分次第です。

1 センター試験志願者数 前年よりやや減少の55.9万人に！

出願総数は、10月16日時点で、前年確定数より約2千人少ない55.9万人となっている。このうち、現役生は45.5万人で、前年を2.7%程度上回っている。一方、既卒者は前年に比べ、11.6%減の10.4万人で、2年ぶりの大幅な減少になった。減少の背景としては、今春の入試において、翌年度の新課程入試を敬遠して浪人回避の動きが例年以上に高まったことが挙げられる。

2 上智大・法政大など ネット出願導入！

2015年度入試で注目されるのは、昨年度以上にネット出願の新規導入が多いことである。従来の「紙の願書」を廃止したり、ネット出願に伴う受験料割引を導入したりする大学も目立っている。ネット出願は、ネット環境さえ整っていれば、自宅（または学校）から、しかも締切日の深夜まで出願でき、なおかつ記入ミス在未然に防げる利便性が評価されている。上智大・法政大・成城大・亜細亜大などが一般入試でネット出願を導入し、このうち上智大では紙の願書を廃止する。また、既の実施している大学では、東海大が対象を一般A方式（医学部以外）・理系学部統一入試に拡大し、ネット割を導入、神奈川大も対象を給費生試験・一般前期・セ試前期に拡大し、紙の願書を廃止する。

3 大卒就職内定率 リーマンショック以前の水準に近づく！

日本経済新聞社が、11月19日にまとめた2015年度採用状況調査で、主要企業の大卒採用内定者数（2015年春入社）は今春実績比7.3%の増加で、4年連続で前年実績を上回り、リーマンショック以前の2007～2008年度の水準に近づいた。業績が回復した自動車や鉄鋼がけん引して、製造業が6.1%増と3年ぶりに増えた。非製造業は7.9%増であるが、小売りや外食などで予定採用者数に届かない企業が目立っている。未達企業で採用活動を継続するのは一部で、多くは2016年度採用で補うことになる。2016年春入社から採用活動は3カ月繰り下げられ、採用競争が一段と激しくなると言われている。

4 大学入試改革 2021年度入試から新制度で！

大学入試改革などを議論している文科省の諮問機関「中央教育審議会（中教審）」の答申素案が10月23日に発表された。素案では、グローバル人材育成を視野に、自ら課題を見つけて解決する「問題解決型能力」を測る方向性が示されている。現小6生が受ける2021年度入試から新制度が導入される予定である。しかし、大学独自の個別試験については、乗り越えるべき大きな壁がある。まず、受験生を多面的に評価する手段として、面接や小論文、グループ討論が想定されるが、これには人手と手間がかかる。すでにAO入試等で成果を上げている大学でも、「受験生100人が限度」と言われている。さらには、「公平性」が担保できるかが問題となる。日本ではペーパー試験での一発勝負が公平だという考えが根強い。面接やグループ討論の内容を受験生側が納得できるように緻密に採点できるのか、という指摘もある。

新しい大学入試のイメージ



新テストの骨格案

	大学入学希望者 学力評価テスト	高校基礎学力 テスト
目的	大学教育を受けるために必要な能力を把握	高校教育の基礎的学習の達成度の把握
対象者	大学受験生のほか、社会人も含めだれでも受験可能	高校2,3年生。希望参加型
内容	教科型に加え、合科目型や総合型を組み合わせ。将来は教科型は廃止。英語は外部試験を活用	主要6教科(国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科)を想定。英語は外部試験を活用
実施方法	年複数回実施	年2回程度実施。夏～秋を基本
テスト形態	選択式と記述式。パソコンを使ったCBT方式を前提	選択式を原則。CBT方式を前提

◇ 大学入試を基礎から知る

第7回 <大学入試用語 その1>

一般入試

学力試験によって合否を決める、最も多く行われている選抜方式。推薦・AO入試以外の入試を指す。大学が指定する教科・科目の総合点で合否が決められる。さまざまな試験方式がある。

推薦入試

高校から推薦された生徒を調査書や面接などにより総合的に評価する選抜方式。小論文や面接を課す大学も多い。学力だけで判断するのではなく、幅広い視点から判定し、学風や教育方針に合った学生を選抜しようという目的で実施されている。ただし、大学が指定する出願条件に当てはまらなければ受験できない。また、国公立大学の中には、センター試験などの学力試験を課す大学もある。

AO入試

大学が求める学生像（アドミッション・ポリシー）に合っているかどうかや、学びへの意欲や関心、適性を重視する選抜方式。面接を複数回行ったり、出願時に志望理由書や小論文などを提出させたりして、時間をかけて選考を行う。新しいタイプの入試として注目されている。近年、急速に導入大学が増えている。

大学入試センター試験

高校での基礎的な学力の到達度を測る目的で行われている全問マークシート方式の試験。国公立大の1次試験として利用されているだけでなく、センター試験利用入試を行う私立大志願者も受験しなければならない。受験が必要な科目や配点は、各大学・学部が独自に設定する。2014年度は約53万人が受験した。

評定平均値

推薦入試の出願や、合否を決める際の基準となる数値。高1～高3の1学期までに履修したすべての科目の5段階評価の成績を合計し、全科目数で割って算出する（小数点以下第2位を四捨五入）。調査書上では「全体の評定平均値」と呼ぶ。

■ 評定平均値の算出方法

(例) 履修科目数30, 評定の合計値が116のとき

$$\frac{\text{評定の合計値(全科目)}}{\text{全科目数}} = \frac{116}{30} = 3.86\cdots \div 3.9$$

学習成績概評

評定平均値をA～Eの5段階にランク分けしたもので、評定平均値とともに調査書に記載される。評定平均値の5.0～4.3=A段階、4.2～3.5=B段階、3.4～2.7=C段階、2.6～1.9=D段階、1.8以下=E段階となる。

個別学力検査

国公立大の2次試験のこと。国公立大の一般入試では、センター試験と個別学力検査の結果を総合して、合否が決まるのが一般的である。大学ごとに独自に問題が作成され、全問マークシート方式のセンター試験とは異なり、記述式問題で行われる。

2段階選抜

国公立大入試で、センター試験終了後、その得点や調査書をもとに、個別学力検査の受験に進めるかどうかの選抜を行うこと。難関国公立大や医学部など一部の大学・学部・学科で、募集人員に対して、個別学力検査の志願者数が大きく上回った際に実施される。

